

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成22年1月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3493200020
法人名	医療法人 好縁会
事業所名	グループホームふれあい青崎東
所在地	広島県安芸郡府中町青崎東7番1-5号 (電話) 082-581-8800
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成22年1月21日

## 【情報提供票より】(22年1月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 21年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	19 人
利用定員数計	18 人
常勤	18人, 非常勤 3人, 常勤換算 16.0人

### (2) 建物概要

建物構造	耐火建築 鉄骨造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,500 円	その他の経費(月額)	22,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(9月18日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	下山記念クリニック、ふれあいクリニック、マツダ病院、大芝訪問歯科クリニック
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ふれあい青崎東」は、医療法人好縁会の最も新しいグループホームとして、平成21年3月に開設され約1年を迎える。府中の公民館での地域介護教室の開催等を通じ、地域の皆様に支援され、また行政との関係も良好である。法人本部は、職員の育成に熱心で、介護知識や技術の向上を目的に、年1回「マイスター試験」を実施している。このホームでは、昨年も多くの職員がこの試験に挑戦し、法人と事業所が一体となり、職員の資質向上に努めている。このホームでは、本部の理念の下に、「職員と入居者が一緒に生活する」を重視し、管理者と職員が一丸となって支援する体制ができている。また、家庭的な雰囲気の中で、入居者は穏やかな生活をされている。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価である。取り組み改善項目が数項目あるが、開設1年満たない中で、職員と管理者が一体となって、評価の意義を理解され、よく努力されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めての今回の自己評価に対し、職員全員で取り組み、的確に問題点を把握し、更に現状に満足することなく、ホームを良くしたいという熱意が感じられる。また、管理者と統括責任者は、外部評価員の意見に熱心に耳を傾け、より良いサービス向上を目指す姿勢が感じられた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、開設後の準備に時間を要し、2回の開催であるが、地域代表・行政・家族代表の参加により活発な意見交換がなされている。今後は、ホームが地域の方たちとの交流を深め、互いに協力できる関係づくりにより一層努力されることを期待します。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>入居者の様子は、隔月発行されるグループホーム便りと共に報告され、家族面会時にも報告されている。また、家族からの要望は、家族来訪時の意見交換から把握されているが、家族の方への現状報告、意見の収集の不足が感じられます。この3月に開催される家族会を通じ、家族とのコミュニケーションが密になることが望まれます。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>秋祭りや年末の餅つき大会など、地域との交流が活発にされています。地域の保育園や近隣の学校との交流も計画されているようですので、ますます地域との交流に努めてください。</p>

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念を各事業所に掲示し、各事業所では、理念の達成に向けて毎年事業計画書を作成し、重点事業方針を明確にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営理念はスタッフルームに掲示し、管理者は、職員全体会議で理念に対する認識を見失わないように指導している。事業所では、理念達成に向けて毎年事業計画書を作成し、各ユニットの重点目標を掲げている。また事業計画書は職員全員に配布し、職員が内容を理解してサービス提供するように努めている。		理念達成に向けて、毎年事業計画書を作成されているが、達成すべき項目が多岐にわたり、ややわかりにくい内容となっている。理念達成に向けて、「一年間の努力目標」をもっとわかりやすい言葉で表現して取り組まれることも検討して頂きたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年末のホームの餅つきには、町内会会員や子供会の会員が参加し、入居者や職員と交流を深めた。法人が行う介護教室の参加案内を町内会で回覧してもらい、地域住民が参加するなど相互協力が行われている。今後は、地域の保育園や障害者支援機関との交流も深めていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価は、ホームの多くの職員が自分たちで自己評価を行い、管理者が細部を検討して作成された。今回が初めての外部評価であるが、結果については、職員・家族に報告し、改善策について、運営推進委員会で意見を頂き、職員と協議していききたいと考えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の参加者は、地域の住民代表や家族、行政からの出席もあり意見交換が活発にされている。ホームと地域交流の行事や、ホームが夜間時に火災になった時の協力要請など地域の方々と真剣に検討されている。今後は単なる意見交換の場だけでなく、内容のある会議にしていききたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者とコミュニケーションの機会を持つようここらげている。また、町は法人が地域の公民館で行う介護教室の案内を、町の広報誌に掲載し、協力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回発行する家族便りには、入居者のホームでの様子が写真と共に掲載され、各入居者の日常の様子が記載され家族へ郵送されている。ご家族の面会時には、入居者の様子を伝え、体調変化の際には電話連絡をしている。		入居者の日常の様子などは、面会時に口頭で報告されているようであるが、重要な事や必要な品などに関しては、文書で報告して、家族に明確に伝えることも今後は検討して頂きたい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は、今後開催する予定で日程を調整している。家族会で、家族の方と意見交換をしたいと考えている。また、ご家族の面会時には、ご家族の意向や要望を聞くように努めている。		苦情は今のところ寄せられていないようであるが、今後は本人や家族の不満や要望についても記録に残し、職員が情報を共有してより良いサービス向上に努めて頂きたい。家族から寄せられる意見だけでなく、たとえば「職員のあいさつについての状況」などわかりやすい項目について、積極的に家族にアンケートで問いかけるなど、サービス内
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代はなるべく最小限にし、入居者の混乱を招かないようにしている。職員が交代する際には、新しい職員を配置して、引き継ぎが混乱なくできるようにしている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人と事業所がそれぞれ年間研修計画を作成し、内部研修を実施している。研修には、新人研修や中堅スタッフ研修など、それぞれの立場の役割を果たせるような知識や技術を習得できるようになっている。法人は、毎年1回マイスター試験を実施しスキルアップに対する意欲の維持や向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での連絡会や、職員の交流が行われている。今後、町内にグループホームの集まりができれば、参加する意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面談の際には、ホームの雰囲気やサービス内容について、具体的に説明をしている。また、入居前にはできる限り本人に施設を見学してもらい、サービス内容などを理解してもらうようにしている。昼間のサービス体験は事前に申し込みが可能である。入居が決まれば、早く環境になじんで頂けるよう、本人に関する情報を収集し支援できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「入居者と共に生活する」という考えの下、共に支え合っている。その為には、ご本人の趣味・嗜好や生活習慣などをより良く把握して、サービスに結び付けていきたいと考えている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常的な関わりの中で、意志疎通が困難な方でも、表情や動作からご本人の意向をくみ取るように努めている。また、ご本人の意向は記録し職員間で情報を交換し、サービス提供やケアプランに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人一人にケアプラン担当者を決め、ケアプランを作成している。担当者がケアプランを作成する際には、他の職員の意見を十分に聞き、カンファレンスを行った上で、介護計画作成者と相談して介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則的には、6か月に1回介護計画を見直している。担当者は、日常の介護から本人の様子や意向を把握し、計画作成者は家族の意向を把握し、相互に意見交換をして必要があれば、介護計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	終末期の介護については、法人の医師・看護師の連携による体制の整備を行い、法人の管理栄養士による食生活に対するアドバイスがなされている。また、入居者が外出や外泊をする際には、適切な介護方法をアドバイスし、福祉用具の貸し出しを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、主治医が往診し、身体状況を把握している。また、定期的に訪問する看護師から、主治医に状況報告がなされており、体調変化の場合には対応できるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の在り方について、入居時に本人や家族から意向を確認している。ホームとして看取りを行っていく指針について説明を行い理解してもらっている。また、看取りが必要な状況になった場合には、家族・医師と連絡を取り合い適切に対応できるように体制を整備している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護記録などの記録類は、施錠できる収納庫に保管している。人権尊重した介護ができるように、ユニットミーティングで確認したりし、適切な介護が行われるように配慮していきたいと考えている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先ではなく、入居者を支援していくように努めている。朝食や起床・就寝の時間については、入居者の生活リズムに合わせた対応を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と昼食については、職員が献立を決めているが、夕食については、入居者の希望を反映した献立にしている。夕食の献立が決まったら、入居者と共に買い物に出かけ用意している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の習慣や意向を尊重し、体調に配慮し入浴して頂いている。入浴を強く拒否される方には、入ってもらうタイミングを見つけて、楽しく入浴してもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の今までの生活歴を把握して、ご本人の関心のあることを強制することなく、家事作業に取り組んで頂けるようにしている。ホームの畑には、園芸ボランティアの協力で野菜が栽培されているが、興味がある人にはボランティアと一緒に作業を手伝ってもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には、できるだけ散歩に参加してもらうようにしている。また、毎日の食材の買い物には、必ず入居者に同行してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、施錠しているが、日中は玄関は施錠していない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防火・避難訓練をするように計画している。町内会長の支援を頂き、火災等の際には、地域の消防団に応援していただけるような協力体制ができつつある。		地域の消防団の協力以外に、ホームとしては、夜間の避難マニュアルを完備し、夜間想定火災訓練の実施を検討していただきたい。また、ホーム近隣の住民の方には、夜間の火災発生時には、協力頂けるような関係を構築し、災害に備えて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者が必要とされる食事・水分を摂取できるように努力している。法人の管理栄養士が月に1回来初して、栄養のバランス、治療食や献立について指導してもらっている。お茶ゼリーを作り、日常的に水分を摂取しやすくする工夫をしている。</p>		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングや玄関は、入居者の方に、季節感を感じて頂けるように、飾り付けを工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者のなじみの家具を持ってきて頂き、ご本人が心地よく過ごせるように配慮している。</p>		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グル - プホームふれあい青崎東 ( Aユニット )

評価年月日 2009年12月15日

記入年月日 2009年12月28日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 碓 敏孝

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念の基づく運営</b>				
<b>1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	有形無実化した理念としないように、法人は経営理念を各事業所に明示し、事業所では理念の達成に向けて、年度毎の事業所単位におけるサ・ビス方針や目標を定めて実践に努めている。	○	来年度の当事業所のサ・ビス方針及び実践計画書を作成する時期にあり、開設2年目を迎える段階における適切な方針及び計画の作成に努めたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	経営理念のスタッフル・ムへの掲示、また管理者は全体会議、カンファレンス等でスタッフに理念に対する認識を見失わないようにしている。 また、理念の達成に向けて事業計画を作成し、計画に基づいてサ・ビスを提供するよう努めている。	○	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	隔月に運営推進会議を開催し、ご家族並びに町内会代表者にサ・ビス理念や方針を理解していただけるよう努めている。 また、2ヶ月毎に地域介護者教室を開催し、住民の皆様には事業所のサ・ビス理念等を理解いただく機会としている。	○	
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的な買い物や散歩の際、近隣住民の皆様との付き合いが深まるよう意図的に挨拶及びコミュニケーションをもつよう努めている。 年末には、ささやかではあるがクリスマスの雰囲気作りとして外壁にイルミネーションを点灯した。	○	町内会が集会所で「いきいきサロン」を立ち上げられたことから、支援依頼をいただいている。今後、可能な限り、事業所の機能を提供できるよう努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	秋祭りには、ホームの敷地内に神輿を担ぎ入れていただき、多数の住民の皆さまとの交流が持てた。 また、ホームの餅つき行事に町内会長様を始め、多数の町内会会員並びに子供会の皆様に来所していただいて、餅つきを通して、ご入居者、そして、スタッフとの密度の濃い交流の機会となった。 町内会の回覧の機能を活用させていただき、行事支援に対するお礼や介護者教室の参加案内などの文書を作成して、配布していただいている。	○	府中町みなみ保育園園児、柏学園ご利用者の皆様との世代間交流の実施を図りたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	隔月に認知症ケアの基本的な知識や技術を理解いただくための地域介護者教室を開催している。 昨秋、始められた町内会主催の「いきいきサロン」に必要とされる部分の支援を行うよう計画している。 電話や訪問いただき介護等に関する相談を受けた際は、誠意をもって対応している。	○	認知症サポ-タ-の実習の受け入れなどの支援及び認知症ケアに関する相談所としての機能を整備して、積極的に相談対応する企画について検討している。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	多くのスタッフが、始めてサ-ビス自己評価に取り組んだが、しっかりと意義を認識している。評価結果は、真摯に受け止め、必要に応じて具体的な改善策を検討している。	○	
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	第1回の運営推進会議で会議自体がサ-ビス評価の意味を持つことなど、可能な限り具体的に会議の目的・意義を説明した。2回目の会議を終えたばかりではあるが、現行のサ-ビスに対する評価及び改善についての意見交換に結びついている。会議におけるご意見等は日常のサ-ビスに反映するよう努めている。	○	運営推進会議におけるサ-ビス評価の機能を活用できるように、会議の議題の選定や進行方法などの工夫に努めたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	町役場への各種報告書や届出書は、郵送でなく訪問して提出し、担当者とのコミュニケーションの確保に努めている。町担当課の皆さまには、事業所のPRや介護者教室の案内(町広報誌への掲載・民生委員総務会での事業所紹介の機会設定等)などについても、協力をいただいている。	○	現状の町との関係を維持するために、ご入居者のご家族等関係者のサ-ビスに対する満足度の向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	全てのスタッフが、権利擁護に関する制度について認識できているという状況には無い。 現在、制度の利用に関する具体的な二-ズはみられないが、今後二-ズが発生した場合は、ご家族等関係者と連携し、求められれば必要とされる制度利用について支援に努めたい。	○	職員の制度に対する理解については、事業所内での会議・研修のテーマとして継続的に取り上げていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員の身体拘束の廃止に対する意欲は強い。全スタッフが高齢者虐待防止などはあってはならないとの意識を有しており、日常的に意図して業務に従事している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書、各種同意書を提示し、具体的に説明するよう努めている。ご利用者及びそのご家族等関係者からの不安や疑問点などは、可能な限り不安等を解消いただけるよう適切な説明に努めている。	○	
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	ご入居契約時に重要事項説明書を提示し、事業所及び外部の相談・苦情窓口を確実に説明している。日常的なご利用者への意向確認及びご家族からは面会時にご意見等をお聞きするよう努めている。運営推進会議には、ユニット・タ・が出席し、ご利用者及びご家族代表者からご意見等をお聞きし、必要の都度、運営に反映するよう努めている。	○	
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	隔月に家族便りを発行し、事業所の日常の様子や個別のご利用者の状況、スタッフ関連の情報提供に努めている。また、ご家族の面会時、ご利用者の状態等を的確に報告するよう努めている。また、ご入居者の体調変化など必要の都度、ご家族に電話により報告・相談するよう努めている。	○	家族便りの発行及び随時のご入居者の状況報告を継続的且つ、よりの確に実施して行きたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会については、開設1周年を向かえる3月の開催を計画している。 ご家族面会時には、ご利用者の状態報告に併せて、ご家族のご意向等をお聞きするよう努めている。契約時に重要事項説明書を提示し、外部の相談・苦情窓口を確実に説明している。	○	
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	4ヶ月毎の全体会議及び月1回ユニットミ・ティング開催時に管理者又は介護統括責任者が出席し、職員の意見等を聞いて必要の都度、運営に反映するよう努めている。委員会活動を推進しており、全スタッフがいずれかの委員会に所属し、事業所の運営に対して率直に意見を述べ、意見を具体化する取り組みに努めている。また、毎月、管理者は、法人運営会議に出席し、事業所の現状と課題及び対応について、運営者に報告している	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要の都度、ユニット内並びにユニット間で連携しながら、柔軟な対応が出来るようスタッフの勤務調整に努めている。	○	
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	Bユニットの開所時に1名、ユニット間の人事交流を実施したが、ご入居者との馴染みの関係を意図して職員の交替は必要最小限に止めている。また、止むを得ず人事交流を実施した際は、利用者の混乱など招かないよう留意している。 職員の離職に対しては、日常的にモチベーションを維持できるよう個別に話を聞くなどの配慮に努めており、解説後、現在までは、離職した職員はみられない。	○	
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人及び事業所が、それぞれ年間研修計画を作成し、計画的に内部研修を実施している。新人研修、中堅スタッフ研修、管理者研修など階層別の研修を実施し、それぞれの役割を遂行できるよう必要な知識・技術の教育に努めている。また、法人が職員個別の研修費を予算化しており、職員が自らの目標を意図した外部研修に出席している。毎年1回、全ての介護職員にマイスタ - 試験（一次：筆記試験 二次：実技試験）を実施し、スキルアップに対する意欲の維持・向上を図っている。	○	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町が主催する関係者協議会への出席及び隔月に地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、病院等を訪問して事業所の活動紹介することを通して、信頼関係の構築に努めている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は、職員の余暇活動の支援として野球観戦チケットの配布やクラブ活動の支援(ソフトボール) 随時、事業所を訪問して職員に意見を求めるなどにより、ストレスの軽減を図っている。事業所においては、心身の疲労感を蓄積しないよう勤務シフトへの配慮、また管理者又は介護統括責任者、リーダーが職員との個別面接を持つこと等により、モチベーションを維持するよう意図的に取り組んでいる。</p>	○	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>運営者は、研修計画を作成し、計画に基づいて研修を実施している。毎年1回本人の全ての介護職員を対象として筆記・実技試験を実施して、職員のスキルアップに対する意欲の維持・向上を図るとともに成績優秀者には給与面への配慮もしている。また、個々の職員の業務チェックリストにより、スタッフ本人・所属長が職員の業務実績を評価しており、向上心に結びつけるよう努めている。 事業所では、全ての職員が個人目標を立てている。2月、来年度の個人目標の作成に向け、個別面談を実施し、個々の職員のモチベーションの維持・高揚を図るよう計画している。</p>	○	
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>来所又は電話等による相談、利用申し込み受け付け時には、ご本人および子家族等関係者との信頼関係作りに重点を置き、ご本人の住まいにお伺いしてサービス利用に対する心情や意向を的確にお聴きするよう努めている。</p>	○	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>来所又は電話等による相談、利用申し込み受け付け時に、本人情報の把握に併せて、ご本人及び家族の不安や疑問、またご意向を的確にお聴きするよう努めている。</p>	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談受付時は、ご本人及び家族の主訴を的確に把握し、他のサ-ビス利用も視野に入れて適切な情報提供等を行うよう努めている。	○	
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	面談又は電話による相談受付時、可能な限り事業所の環境・雰囲気、またサ-ビス内容を具体的に説明するよう努めている。また、なじみの関係作りを意図して、サービス利用前にご本人に可能な限り見学来所いただくよう努めている。居室内には、ご本人の住み慣れた住環境に近づけるよう、なれ親しんだ家具等を持参していただいている。ご家族等関係者からの本人情報の収集を的確に行い、適切なアセスメント及び暫定プランの作成に努め、ご入居後は可能な限り早期に環境に馴染まれるよう支援に努めている。	○	利用者の趣味・嗜好や生活習慣に配慮して、早期に施設環境に馴染んでいただけるよう取り組んでいきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お一人おひとりのご入居者を人生の先輩として敬うという認識を持って、関わらせていただくよう努めている。接遇にも十分配慮し、ご本人との関わりを通して、ご本人から学び、互いに楽しい日々を送るということを意図してサ-ビスを提供するよう努めている。	○	的確にアセスメントを行い、本人の趣味・嗜好や生活習慣等を的確に把握して、サ-ビスに結び付けたい。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族面会時の対話や電話により、利用者の状況を可能な限り適切に報告するよう努めている。利用者の体調や生活状況等の情報をご家族と共有し、必要に応じて家族と共にご本人を支えていくという視点を持ってのサ-ビス提供に努めている。	○	家族からの相談にいつでも対応できるような雰囲気づくりに努め、信頼関係を維持していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居前のアセスメント、また入居後は家族面会時や電話での状態報告の際に、ご本人と家族との関係性を把握するよう努めている。家族関係への係りは、デリケートな要素があるとの認識を持って、必要の都度、慎重に係るよう努めている。	○	ご家族等への報告・相談に際しては、不安感や不信感を招かないよう、的確な内容をお伝えし、率直なご意向をお示しいただけるよう、日頃からの関係の維持に努めたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしてくられた方々の面会時には、ゆったりとご入居者と対話できるようお茶をお出ししたり、会話を支援するなど、継続的にご面会をいただけるような雰囲気作りに努めている。外出行事の際は、行き先の選定要件の一つに、ご本人にとってのなじみの場所を盛り込んでいる。	○	利用者の家族、知人・友人等のご面会時には、続けて来所したいと感じていただけるよう、関係を大切にしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご入居者の個性性に配慮し、日常生活の中に体操や共同作業に取り組んでいただくなどご入居者同士の仲間作りを意図したプログラムに取り組んでいる。リビングでの着席場所やご入居者同士の関わりの場面での対話の支援、外出行事の同行者の人選などに配慮して、ご本人にとって心地良く共に過ごせる仲間作りに努めている。	○	利用者が重度化しても他者との関係が途切れることのないケアを目指したい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	開設後、2名の退去者があり、退去の際には、共に過ごした日々様子を記録したアルバムやカレンダーを手渡しして、生活上の問題等が発生したら気軽に連絡いただくよう説明している。法人内のグルーブホ-ムに転居されたご退去者とは、気軽に立ち寄っていただくことや行事等での交流を計画している。	○	
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日常的なご本人との関わりを通して、意図的にコミュニケーションを持って意向を把握するよう努めている。意思表示困難なご入居者もいらっしゃるが、可能な限り表情や動作によって意向等を把握するよう努めている。また、それらのご入居者の反応（表情や動作の変化）は、記録に残し、職員間の情報の共有化及び支援内容の検討に活用している。</p>	○	<p>日常的に一人ひとりの思いをお聴きして、ケアの中に取り入れて行きたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居前面接及び契約時には、可能な限りご本人の生活史、馴染みの人・物・環境等を詳しくお聴きするよう努めている。ご本人の状態が、分かりやすく総合的に把握できるように記録の方法を工夫し、記録書式については、より効果的に活用できるよう何度か書式の見直しを実施した。</p>	○	<p>利用者の暮らし方に合った生活づくりに取り組んでいるが、その半面安全への配慮にも十分配慮するよう努めたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。</p>	<p>日常的な利用者の様子観察に努めている。個々の職員が把握した情報は、毎日朝夕の引継ぎ及び記録により職員間で情報を共有し、利用者の現状を総合的に把握するよう努めている。職員は、日常のサービスの適否について意図的に点検し、必要の都度、ミニカンファレンスを行い、見直すよう努めている。</p>	○	<p>日常的に利用者のできること・できないことを把握して、日の人らしい生活を探していきたい。</p>
<p>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者の生活課題の把握及びサービス内容の適否について、意図的に点検・評価し、必要の都度、本人の意向確認に取り組んでいる。面会時や電話等で家族に報告・相談し、意向を確認している。把握した意向等は、介護計画に反映するよう努めている。</p>	○	<p>本人及び家族の意見やアイデアを、より多くお聴きして介護計画に反映したい。</p>
37	<p>状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>原則、介護計画は6ヶ月毎に見直すよう努めている。利用者の状態が疾病等により変化し、介護計画の見直しが必要になった場合は、訪問看護師の意見も取り入れて随時介護計画を見直すよう努めている。見直しの際もご本人及び家族等関係者の意向把握に努めている。</p>	○	<p>利用者の状態変化等に合わせて、適切なタイミングで介護計画を見直すよう努めたい。</p>



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活状況表に個別記録を記載している。職員はご入居者個別の情報の共有化に努め、それらの情報は介護計画の見直しに活かしている。	○	生活状況表への記録内容の充実を図りたい。ケア実践上の気づき等も適切に記載して、全スタッフが情報を共有しチームケアを推進したい。
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	終末看護の要望に際して、法人内クリニックの医師・看護師との関係により、最期まで看取らせていただける体制を整備している。法人の管理栄養士による食生活に対する指示・指導、機能訓練担当者からのアクティビティや機能訓練に対する指導などの機能を活用できる状況にある。外出・外泊時には、同伴者への適切な介助方法の伝達や福祉用具の貸し出し等の配慮に努めている。	○	必要の都度、法人内外の事業所と関係しながら、可能な限り要望にお応えするよう努めたい。
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域演芸ボランティアに演芸を披露いただいたり、毎週、園芸ボランティアに来所いただき、ご入居者と共に野菜栽培に取り組んでいただいている。 家族のお一方が地域でタオル体操を指導しておられ、毎週来所されてタオル体操を指導いただいている。	○	地域資源を発掘し、積極的に活用したい。 安全対策上、警察・消防等との連携強化を当面の課題としている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	開設初年度につき、地域の関係事業所とは入居者を紹介いただくことを通して関係を築いてきた。入居者の受け入れに際しては、ご本人及びご家族の意向を尊重し、必要の都度、専門病院や他の介護保険サービスの利用も視野に入れて協議・検討を実施した。	○	今後、他のサービス利用に関する要望をお聴きした場合は、可能な限り支援に努めたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	1例ではあるが、帰宅願望の強いご入居者の混乱の緩和に向けて、地域包括支援センターと協働してきた。地域包括支援センターとは、関係者協議会での交流や入居者の受け入れ、当事業所主催の地域介護者教室の住民に対する案内を支援いただくなどから、信頼関係を構築するよう努めており、必要に応じて、連携可能な関係にあると認識している。	○	地域包括支援センターとの連携をより一層深めるよう、日常的な交流機会の設定に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>全てのご入居者が週1回主治医の往診を受けておられる。体調に変化が発声した場合は、随時、主治医に状態報告しており、必要の都度、受診介助している。</p>	○	<p>日常的な利用者の体調管理に十分留意し、体調に変化がみられる際は、速やかに医師・看護師に報告及び相談して、適切な支援に努めたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>法人代表(理事長)が認知症治療に取り組んでおり、随時、報告・相談の上、治療及びケアに関する助言・指導を受けている。</p>	○	<p>生活状況記録を的確に記載して、医師に対し、より具体的に報告・相談するよう努めたい。医師からの診断及び指示等は、適切な対応に努めたい。</p>
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>週1～2日契約医療機関の訪問看護師が来所し、利用者の状態観察及び医学的処置等に当たっている。24時間オンコールで看護師との報告・相談できる体制を整備しており、必要の都度、処置方法等の指示・指導を受けている。</p>	○	
46	<p>早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が入院した際は、定期・不定期に面会して担当医・看護師・家族との情報交換に努めている。 退院の目途が示された時点で、退院後のサ・ビス計画書の作成のためのアセスメントを実施している。 入院生活継続に支障がある場合など、急遽、退院の指示がある場合は、主治医と連携して即応できるよう努めている。</p>	○	<p>医師への報告・相談を密に行い、病院機関との関係をより一層強化したい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>終末期のあり方について、ご入居契約時に意向を確認するよう努めている。終末期の意向を入居時に確認するための意向確認書を導入し、意向確認を始めた。 看取りに関する指針を整備し、必要に応じて、指針に基づいて適切に対応するよう計画している。</p>	○	<p>本人及びその家族が終末期に事業所での看取りを希望される場合は、家族に事業所の機能等を十分に説明し、納得いただいた上で可能な限り適切なケアに努めたい。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化した場合に関する対応及び看取りに関する対応指針を整備しており、必要に応じて、指針に基づいて適切に対応するよう計画している。</p>	○	<p>今後、二・ズが発生した際は、家族、主治医・看護師と連携により、可能な限り適切な支援に努めたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>特養及び他のグル- プホ- ムにそれぞれ1名のご入居者が住み替えをされた。その際は、転居先の事業所に可能な限り詳細な情報提供に努めた。また、転居後も相談等を受けた場合は、適切に回答するよう努めている。</p>	○	
<p style="text-align: center;"><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者への尊厳に配慮した接遇には、十分留意して接している。 ケ- スファイル等の記録類は、施錠できる収納庫で管理している。</p>	○	<p>全スタッフの人権尊重を意図したケアが、継続できるよう、ユニットミーティングで再確認したり、研修会の実施を計画している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常の利用者との関わりの中で、意図的に利用者の思いや要望を把握し、必要の都度、意思を確認しながら支援するよう努めている。</p>	○	<p>意思表示困難な利用者の意思を可能な限り汲み取って、ケアに反映できるよう努めたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員の業務優先ではなく、ご利用者の生活リズムに合わせて、必要とされることを適切に支援させていただくよう努めている。日々の利用者の体調や気分への配慮も欠かさないよう努めている。</p>	○	<p>利用者のその人らしさを的確に把握して、より適切なケアを提供したい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回訪問理・美容サ - ビス業者に来所していただき、ご本人の希望に応じて、カット・毛染め・パ - マなどの対応をいただいている。現在、ご入居の理・美容院の利用を希望される方はいらっしゃらない。地域の理・美容院の利用希望があれば対応に向けて配慮するよう予定している。お化粧品に関心のある方には、使い慣れた用具を持参いただいて、出来るだけお化粧品に取り組みされるよう支援している。普段着や外出着は、複数持参していただいております。可能な限りご本人を選んで着用していただいております。	○	いつまでもおしゃれ心を失われないよう支援して行きたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の嗜好に配慮して献立を作成し、食材は近隣のス - パ - で利用者と共に購入している。ご入居者の力に応じて、食事準備や片付けに取り組んでいただくよう努めている。職員は、食事準備・片付けの際の見守り、また食事は、ご入居者と共に語り合いながら一緒に摂取している。	○	継続実施
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご入居者の健康管理に留意しながら、嗜好を反映した食事、飲み物、おやつを提供するよう努めている。おやつは、ご入居者と共に手作りするところもある。ご入居者のお一人のお酒を保管しており、ご要望に応じて飲酒していただいております。最近、飲酒をきぼうされなくなっている。	○	現在、飲酒・喫煙希望者は見られない。今後、希望者がある場合は、可能な限り嗜好品を楽しんでいただけるよう支援したい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツはできるだけ使用しないことを意図してケアに当たっている。トイレ誘導が必要な利用者には、排泄パターンや習慣を把握して、利用者のリズムに合わせて少し早めにトイレに移動される様ご案内している。排便は出来るだけ自然排便いただけるよう、水分摂取量や食材にも留意している。	○	トイレで自然排便していただけるよう、散歩・体操などを積極的に取り入れたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の習慣や意向を把握し、その日毎にご入居者の意向を伺って、入浴していただいている。 失禁などの際は、速やかに入浴いただいている。 体調や気分不良時には、清拭や部分浴に努めている。	○	強く入浴を拒否される方に対し、体調や気分に配慮しながら、動機付けのタイミングを見だして、楽しんで入居していただけるよう、全職員が統一した対応に努めたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご入居者の生活習慣や体力に応じて、いつでも居室で休まれるよう配慮している。 リビングにソファを設置し、利用者にとって心地よい居場所として仮眠いただいている方もみられる。	○	利用者に安心して、心地よく急速していただける環境整備を行って行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご入居者の生活史や力、趣味・関心等を適切に把握し、日常的な家事作業やアクティビティなど、ご本人にとって趣味・関心のあることに取り組んでいただけるよう努めている。可能な限り外出機会を設定して、外気や地域の人と触れ合う機会をもっといただけるよう努めている。	○	決して強制しないで、日常的な家事作業に取り組んでいただくよう支援していきたい。 積極的に外食や買い物企画していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、現金を所持されているご入居者はみられない。 食材購入に伴っていただいた際や、行事としての買い物の際に私物を購入される場合は、ご本人に説明をして事業所で立て替えて支払っている。	○	
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限りご本人の意向をお聴きして、日常的に散歩を楽しんでいただけるよう努めている。 体調・気分に配慮しながら、食材の買い物に同行いただけるよう働きかけている。 季節に因んだ外出行事を積極的に企画している。	○	積極的に買い物、ピクニックなどを企画するよう努めたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	ご本人の趣味・関心や馴染みの場所をお聴きして、外出行事の行き先を選定するよう努めている(豊島大橋・岩国錦帯橋・平和公園など) 家族と共に外出いただく機会も予定している。	○	利用者の趣味・関心に配慮した外出機会を出来るだけ増やしたい。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族等の事情に配慮しながら、ご本人からの電話を支援したり、先方から電話がある際にはご本人に取次いでいる。	○	大切な人たちとの関係を維持していただけるよう支援に努めたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の知人・友人の方々の面会時には、利用者やゆったりと対話できるよう湯茶を提供したり、必要の都度、会話を支援するなど、出来るだけ居心地よく面会していただけるよう配慮している。	○	いつでも来所いただける雰囲気作りを追及していきたい(接遇・環境整備)。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束の廃止に関する認識を持っており、身体拘束をしないことが当たり前との認識を持ってサービスを提供している。	○	外部研修にも参加するよう努めたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員が居室や玄関に鍵をかけることが身体拘束に繋がるとの認識を持っている。日中、玄関は開錠しており、居室は昼夜問わず開錠して過ごしていただいている。ご入居者には、自ら居室を施錠される方がいらっしゃるが、その際は、頻回に巡室して様子観察している。	○	継続実施
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜通してご入居者の所在を確認しており、定期・随時の様子観察に努めている。その際は、プライバシーに配慮するよう努めている。	○	利用者一人ひとりのなじみの空間を守っていききたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	フロア内の危険物(包丁、薬品)の管理は、徹底している。ご本人が興奮された際など、身の回りに設置すると危険と判断した際に杖などを一時的に保管したことはある。リスク管理の視点に偏重し過ぎて、利用者の生活観を損なうような設備環境やサービスに繋がらないよう留意している。	○	生活観や季節感のある雰囲気は、出来るだけ維持しながら、安全確保に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故予防マニュアルを設置し、事故防止に必要な知識の共有化に努めている。 ヒヤリハット事象が発生した際は、当日勤務する職員が協議・検討し、原因及び再発予防策を見出して全スタッフが統一した対応に努めている。また事故対策委員会を構成している。	○	インシデント報告書の効果的な活用に努めたい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	開設時の研修会で医学的な処置等の基本的な知識・技術の習得を図っている。 町消防本部の協力を得て、事業所で救急救命法の講習会を計画している。	○	内部・外部研修に積極的に参加し、参加者はミ・ディングで伝達研修を行い、全てのスタッフが知識・技術を共有できるよう努めたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防法に基づき、年2回防火・避難訓練を実施するよう計画している。 町内会長様の支援をいただき、火災等の際には地域の消防団に応援いただけるとの回答をいただいている。	○	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居契約時、ご本人の身体機能や疾患により予測されるリスクについては、確実に家族等に説明を実施している。 ご本人の状態に変化がみられる都度、家族等に対し、ご本人の状態及び対処方法の報告に併せて予測されるリスクについて説明し、意向を確認している。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック及び日常の状態観察を的確に実施するように努めている。例えば小さな体調変化でも、申し送り及び連絡ノートでスタッフは情報を共有し、必要の都度、訪問看護師・主治医に報告・相談の上、指示に基づいて適切な対応に努めている。	○	全ての職員が、利用者の体調変化を早期発見、的確な報告・相談、医療関係者からの指示への対応などに要する知識や技術を習熟し、適切な対応が図れるチームを維持したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋を確実にケ-スファイルに綴り、全てのスタッフが記載事項を把握するよう努めている。処方に変更があった際は、記録に残し、全職員がその情報を共有して、指示された服薬の時間・数量を確実に内服いただくよう支援している。また、処方変更後の利用者の状態変化については、その都度、主治医に報告・相談している。</p>	○	<p>訪問看護師、医師との連携により、的確な服薬介助に努めたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>全職員が便秘の原因や及ぼす影響に関する認識は持っている。またミ-ティングで、排便状況を確認し、間隔の長い入居者がある場合は、訪問看護師に報告・相談して服薬コントロール等により便秘症状の改善を図っている。</p> <p>日常的に適正量の水分摂取や食材の工夫、運動量の確保或いは内服管理に努めている。</p>	○	<p>できるだけ薬に頼らずに自然排便いただけるよう飲み物の工夫や本人のリズムに合ったトイレ誘導に努めたい。毎日実施している体操の中で、腹部マッサ-ジの要素を取り入れたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケア及び入れ歯の洗浄を確実に支援している。</p> <p>必要に応じて歯科医の往診を受けていただいている。</p>	○	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者の嗜好、食事・水分の適正量を把握し、日々の利用者が必要とされる量を摂取いただくよう努めている。</p> <p>月1回管理栄養士が来所して栄養バランスや治療食など献立の点検及び指導を受けている。</p> <p>誤嚥予防のために食物の調理方法や形状(キザミ等)水分にトロミをつけるなどの工夫に努めている。</p>	○	<p>ご入居者にとって安心・安全で楽しんでいただける食事を提供していきたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症予防マニュアルに基づき、日常的に予防に努めている。感染症対策委員会を構成し、保健所等関係機関からの情報を入手しながら、必要の都度、マニュアルの見直しや食中毒等の警報が出た際は、予防策の実践状況のチェック等に取り組んでいる。</p>	○	<p>全ての職員が、感染症予防に対する認識を維持し、日常的に予防策を的確に実施していきたい。</p>



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	管理栄養士と連携し、マニュアルに基づいて予防策を講じている。 食材別のまな板の使用している。まな板・包丁は、使用後には消毒を実施している。食材は、新鮮なものを吟味し、調理後 2 時間以上経過した食物は処分するなどの処置に努めている。	○	定期的な台所の清掃及び調理用具の消毒を確実に取組みたい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関やリビングには季節に応じた生花や飾りつけを行い、季節感のある和みの雰囲気作りに努めている。 環境委員会を構成し、建物内外の環境整備に取り組んでいる。	○	玄関周辺を地域の方が気軽に訪問下さるような環境づくりを追及していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やリビングは、季節に応じて模様替えを行い、生活感や季節感を感じていただけるよう環境づくりに努めている。	○	心地の良い和みの雰囲気を感じていただける環境づくりを追求していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを設置し、簾による間仕切りなどにより、ご入居者のくつろげる空間の確保に努めている。	○	安全に配慮し、居心地の良い空間作りを追及していきたい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者のなじみのある使い慣れた家具や調度品類、絵画、写真などをお持ちいただき、ご本人にとって心地よい空間となるよう配慮に努めている。	○	安全に配慮し、利用者自身の在宅での生活の雰囲気づくりを追及していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日全館の換気を実施している。室温管理は、ご本人の意向を確認しながら、温度調節に努めている。 気になる臭いが発生した際は、速やかに消臭剤やお香を活用して臭いの除去を図っている。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの今ある力が十分に発揮でき、自由に行動できるよう、動線上の障害物は取り除き、可能な限り、広々とした空間が維持できるよう努めている。 転倒リスクの高い方の居室には、床面にマットを設置するなどの環境整備に努めている。</p>	○	<p>安全且つ安心できて、自立した生活ができるようご本人が使用する家具や福祉用具にも積極的に工夫をしていきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの中核症状の程度や周辺症状のタイプを適切に把握し、可能な限り、混乱など無く、お出来になれることは継続的に取り組んでいただくよう支援している。他者との関わりの中で、関係づくりに配慮し、混乱やトラブルを招かないよう配慮している。混乱が生じた場合は、他者への悪影響を及ぼさないよう、速やかに職員が寄り添い、混乱の緩和を図っている。</p>	○	
87	<p>建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外周りには、ご入居者と一緒に植えた野菜類などを栽培しており、園芸に関心のあるご入居者と水遣りや草取りまた、収穫などの取り組まれるよう支援している。</p>	○	<p>一人でも多くのご入居者に、外気に触れながらの活動に取り組んでいただけるよう、まずは花栽培に取り組みたいです。</p>

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グル - プホームふれあい青崎東 ( Bユニット )

評価年月日 2009年12月20日

記入年月日 2010年1月5日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 碓 敏孝

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念の基づく運営</b>				
<b>1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	有形無実化した理念としないように、法人は経営理念を各事業所に明示し、事業所では理念の達成に向けて、年度毎の事業所単位におけるサ・ビス方針や目標を定めて実践に努めている。	○	来年度の当事業所のサ・ビス方針及び実践計画書を作成する時期にあり、開設2年目を迎える段階における適切な方針及び計画の作成に努めたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	経営理念のスタッフル・ムへの掲示、また管理者は全体会議、カンファレンス等でスタッフに理念に対する認識を見失わないようにしている。 また、理念の達成に向けて事業計画を作成し、計画に基づいてサ・ビスを提供するよう努めている。	○	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	隔月に運営推進会議を開催し、ご家族並びに町内会代表者にサ・ビス理念や方針を理解していただけるよう努めている。 また、2ヶ月毎に地域介護者教室を開催し、住民の皆様には事業所のサ・ビス理念等を理解いただく機会としている。	○	
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的な買い物や散歩の際、近隣住民の皆様との付き合いが深まるよう意図的に挨拶及びコミュニケーションをもつよう努めている。 年末には、ささやかではあるがクリスマスの雰囲気作りとして外壁にイルミネーションを点灯した。	○	町内会が集会所で「いきいきサロン」を立ち上げられたことから、支援依頼をいただいている。今後、可能な限り、事業所の機能を提供できるよう努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	秋祭りには、ホームの敷地内に神輿を担ぎ入れていただき、多数の住民の皆さまとの交流が持てた。 また、ホームの餅つき行事に町内会長様を始め、多数の町内会会員並びに子供会の皆様に来所していただいて、餅つきを通して、ご入居者、そして、スタッフとの密度の濃い交流の機会となった。 町内会の回覧の機能を活用させていただき、行事支援に対するお礼や介護者教室の参加案内などの文書を作成して、配布していただいている。	○	府中町みなみ保育園園児、柏学園ご利用者の皆様との世代間交流の実施を図りたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	隔月に認知症ケアの基本的な知識や技術を理解いただくための地域介護者教室を開催している。 昨秋、始められた町内会主催の「いきいきサロン」に必要とされる部分の支援を行うよう計画している。 電話や訪問いただき介護等に関する相談を受けた際は、誠意をもって対応している。	○	認知症サポ-タ-の実習の受け入れなどの支援及び認知症ケアに関する相談所としての機能を整備して、積極的に相談対応する企画について検討している。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	多くのスタッフが、始めてサ-ビス自己評価に取り組んだが、しっかりと意義を認識している。評価結果は、真摯に受け止め、必要に応じて具体的な改善策を検討している。	○	
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	第1回の運営推進会議で会議自体がサ-ビス評価の意味を持つことなど、可能な限り具体的に会議の目的・意義を説明した。2回目の会議を終えたばかりではあるが、現行のサ-ビスに対する評価及び改善についての意見交換に結びついている。会議におけるご意見等は日常のサ-ビスに反映するよう努めている。	○	運営推進会議におけるサ-ビス評価の機能を活用できるように、会議の議題の選定や進行方法などの工夫に努めたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	町役場への各種報告書や届出書は、郵送でなく訪問して提出し、担当者とのコミュニケーションの確保に努めている。町担当課の皆さまには、事業所のPRや介護者教室の案内(町広報誌への掲載・民生委員総務会での事業所紹介の機会設定等)などについても、協力をいただいている。	○	現状の町との関係を維持するために、ご入居者のご家族等関係者のサ-ビスに対する満足度の向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	全てのスタッフが、権利擁護に関する制度について認識できているという状況には無い。 現在、制度の利用に関する具体的な二-ズはみられないが、今後二-ズが発生した場合は、ご家族等関係者と連携し、求められれば必要とされる制度利用について支援に努めたい。	○	職員の制度に対する理解については、事業所内での会議・研修のテーマとして継続的に取り上げていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員の身体拘束の廃止に対する意欲は強い。全スタッフが高齢者虐待防止などはあってはならないとの意識を有しており、日常的に意図して業務に従事している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書、各種同意書を提示し、具体的に説明するよう努めている。ご利用者及びそのご家族等関係者からの不安や疑問点などは、可能な限り不安等を解消いただけるよう適切な説明に努めている。	○	
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	ご入居契約時に重要事項説明書を提示し、事業所及び外部の相談・苦情窓口を確実に説明している。日常的なご利用者への意向確認及びご家族からは面会時にご意見等をお聞きするよう努めている。運営推進会議には、ユニット・タ・計画作成担当が出席し、ご利用者及びご家族代表者からご意見等をお聞きし、必要の都度、運営に反映するよう努めている。	○	
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	隔月に家族便りを発行し、事業所の日常の様子や個別のご利用者の状況、スタッフ関連の情報提供に努めている。また、ご家族の面会時、ご利用者の状態等を的確に報告するよう努めている。また、ご入居者の体調変化など必要の都度、ご家族に電話により報告・相談するよう努めている。	○	家族便りの発行及び随時のご入居者の状況報告を継続的且つ、よりの確に実施して行きたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会については、開設1周年を向かえる3月の開催を計画している。 ご家族面会時には、ご利用者の状態報告に併せて、ご家族のご意向等をお聞きするよう努めている。契約時に重要事項説明書を提示し、外部の相談・苦情窓口を確実に説明している。	○	
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	4ヶ月毎の全体会議及び月1回ユニットミーティング開催時に管理者又は介護統括責任者が出席し、職員の意見等を聞いて必要の都度、運営に反映するよう努めている。委員会活動を推進しており、全スタッフがいずれかの委員会に所属し、事業所の運営に対して率直に意見を述べ、意見を具体化する取り組みに努めている。また、毎月、管理者は、法人運営会議に出席し、事業所の現状と課題及び対応について、運営者に報告している	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要の都度、ユニット内並びにユニット間で連携しながら、柔軟な対応が出来るようスタッフの勤務調整に努めている。	○	
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	Bユニットの開所時に1名、ユニット間の人事交流を実施したが、ご入居者との馴染みの関係を意図して職員の交替は必要最小限に止めている。また、止むを得ず人事交流を実施した際は、利用者の混乱など招かないよう留意している。 職員の離職に対しては、日常的にモチベーションを維持できるよう個別に話を聞くなどの配慮に努めており、開設後、現在までは、離職した職員はみられない。	○	
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人及び事業所が、それぞれ年間研修計画を作成し、計画的に内部研修を実施している。新人研修、中堅スタッフ研修、管理者研修など階層別の研修を実施し、それぞれの役割を遂行できるよう必要な知識・技術の教育に努めている。また、法人が職員個別の研修費を予算化しており、職員が自らの目標を意図した外部研修に出席している。毎年1回、全ての介護職員にマイスタ - 試験（一次：筆記試験 二次：実技試験）を実施し、スキルアップに対する意欲の維持・向上を図っている。	○	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町が主催する関係者協議会への出席及び隔月に地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、病院等を訪問して事業所の活動紹介することを通して、信頼関係の構築に努めている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は、職員の余暇活動の支援として野球観戦チケットの配布やクラブ活動の支援(ソフトボール) 随時、事業所を訪問して職員に意見を求めるなどにより、ストレスの軽減を図っている。事業所においては、心身の疲労感を蓄積しないよう勤務シフトへの配慮、また管理者又は介護統括責任者、リーダーが職員との個別面接を持つこと等により、モチベーションを維持するよう意図的に取り組んでいる。</p>	○	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>運営者は、研修計画を作成し、計画に基づいて研修を実施している。毎年1回全ての介護職員を対象として筆記・実技試験を実施して、職員のスキルアップに対する意欲の維持・向上を図るとともに成績優秀者には給与面への配慮もしている。また、個々の職員の業務チェックリストにより、スタッフ本人・所属長が職員の業務実績を評価しており、向上心に結びつけるよう努めている。事業所では、全ての職員が個人目標を立てている。2月、来年度の個人目標の作成に向け、個別面談を実施し、個々の職員のモチベーションの維持・高揚を図るよう計画している。</p>	○	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>見学来所時や事前訪問面接時には、ご本人及びご家族等関係者から、サ-ビス利用に対する心情や意向をしっかりとお聴きするよう努めている。</p>	○	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にご本人及びご家族等関係者に係る際は、しっかりとお話を聴き、ご本人及び家族の希望や疑問などを受け止め、必要な情報を提供するよう努めている。</p>	○	



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時には、可能な限り本人の情報を聴き取りご本人にとって必要とされる支援内容を客観的に判断するよう努めている。また、他のサービス利用も視野に入れて適切な情報提供を行うよう努めている。	○	
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な限りご本人に見学していただくよう依頼している。食器や家具等は使い慣れた物品やご本人にとって良き時代の記念品や写真などを持参していただいている。入居日は、夕方を迎えるまでに少しでも環境に馴染んでいただくために、昼食前に入居していただくよう働きかけている。	○	利用者の趣味・嗜好や生活習慣に配慮して、早期に施設環境に馴染んでいただけるよう取り組んでいきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居前に取り組んでおられた家事作業や趣味活動などを的確に把握し、生活リズムの中に出るること及び出来るのにしておられないことに取り組まれるよう支援している。	○	的確にアセスメントを行い、本人の趣味・嗜好や生活習慣等を的確に把握して、サービスに結び付けた。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話により、日々のご入居者の様子を報告するよう努めている。ご本人の体調など変化のある際は、ご家族の意向をしっかりと把握し、必要に応じてご家族の支援を仰ぎながらご本人を支えていくよう努めている。	○	家族からの相談にいつでも対応できるような雰囲気づくりに努め、信頼関係を維持していきたい。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居時のアセスメント、また入居後はご家族と関わりを持つ際に、ご本人と家族との関係性を客観的に把握するよう努めている。全ての職員が、ご本人の支援には、ご家族と職員が情報を共有し、共に支えていくという考え方を有している。	○	ご家族等への報告・相談に際しては、不安感や不信感を招かないよう、的確な内容をお伝えし、率直なご意向をお示しいただけるよう、日頃からの関係の維持に努めたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご面会者に対する接遇には十分留意するよう努めている。ご本人とご面会者との関係を把握し、個人情報には留意した上で、ご本人の様子の説明、或いは入居前のご本人の情報などをお聴きしている。	○	利用者の家族、知人・友人等のご面会時には、続けて来所したいと感じていただけるよう、関係を大切にしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お一人おひとりのご入居者の個性を把握し、ご入居者間の対話場面での関係調整及び普段の生活の中に、ご入居者が共に行う家事作業や余暇活動（体操・貼り絵など）に取り組んでいただくなどなじみの関係づくりに努めている。入居者全員での外出行事を積極的に計画するよう努めている。	○	利用者が重度化しても、孤立感をもたれないよう支援に努めたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現時点では、退去者はみられない。	○	退去者が発生した場合は、次の生活場所の支援者に対する適切な情報提供など、必要に応じて可能な限りの協力を努めたい。
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的にご本人の様子観察及び意向確認をしっかりと行い、ご希望などを的確に把握するよう努めている。希望などの把握が困難な入居者の支援については、しっかりと様子観察を行い、スタッフ間で情報を共有し、必要の都度、協議・検討を実施して適切な支援に努めている。	○	日常的に一人ひとりの思いをお聴きして、ケアの中に取り入れて行きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面接時及びご入居後は、ご本人及びご家族等関係者から、ご本人の生活史や生活環境、気心の知れた人などの情報を出来るだけ詳細にお聴きしてサービスに結びつけるよう努めている。また、アセスメントツールにセンター方式を導入しており、入居前にご家族に生活史や馴染みの環境について、出来るだけ詳細に記載いただいている。	○	利用者の暮らし方に合った生活づくりに取り組んでいるが、その半面安全への配慮にも十分配慮するよう努めたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	時系列に記録できる書式を使用して、一日のご本人の過ごし方や体調・気分などを記録し、日々の状態を全ての職員が把握するよう努めている。	○	日常的に利用者のできること・できないことを把握して、日の人らしい生活を探していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン担当制をとっており、担当者は、他の職員の意見を盛り込みながら、ご本人の生活課題と適切な支援のあり方を出来るだけ具体的に介護計画書(案)に記載している。担当者が作成した計画書原案は、全ての職員が点検し、その職員なりの意見を記載して、担当者に返却している。カンファレンスには、全ての職員の意見を盛り込んだ計画書を提示し、最終確認を実施している。	○	本人及び家族の意見やアイデアを、より多くお聴きして介護計画に反映したい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は6ヶ月毎に見直している。 利用者の状態が変化した場合、ご本人及びご家族の意向や医師・訪問看護師等の意見も確認し、随時介護計画を見直すよう努めている。	○	利用者の状態変化等に合わせて、適切なタイミングで介護計画を見直すよう努めたい。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には、生活状況やケア内容・結果を記載している。職員は引継ぎや記録により、ご入居者個別の情報の共有化に努め、それらの情報は介護計画の見直しに活かしている。	○	生活状況表への記録内容の充実を図りたい。ケア実践上の気づき等も適切に記載して、全スタッフが情報を共有しチームケアを推進したい。
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	日常の食事に対する要望には、法人内の管理栄養士の支援を受け、終末看護の希望に対しては、法人内クリニックの医師・看護師との関係により、最期まで看取らせていただけるなどの体制を整備している。外出・外泊時には、同伴者への適切な介助方法の伝達や福祉用具の貸し出し等の配慮に努めている。	○	必要の都度、法人内外の事業所と関係しながら、可能な限り要望にお応えするよう努めたい。
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年数回、演芸ボランティアが来所。 毎週、園芸ボランティアが来所。ご入居者と共に野菜栽培を実施。 月2回、囲碁ボランティアが来所。男性ご入居者との囲碁を実施。	○	地域資源を発掘し、積極的に活用したい。 安全対策上、警察・消防等との連携強化を当面の課題としている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ご入居者を紹介いただいた事業所のスタッフ、またご入居者の要介護認定調査時に来所されたケアマネージャーとの情報交換などにより、他事業所との関係づくりに努めている。	○	町域での事業者連絡会や外部研修に出席し、他の事業所スタッフとの関係をつくり、連携を深めたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	開設時から、何度か地域包括支援センター職員が見学来所され面識はあるが、現時点では、協働した事例は無い。	○	今後、地域包括支援センターとの連携を要する事例が発生するとの認識を持っている。円滑に連携できるよう交流を図りたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	週1回法人内のクリニック医師の往診を受けていただいている。体調に変化が発生した場合は、その都度、訪問看護師を通じて主治医に状態報告しており、指示ある場合は、速やかに受診介助などの対応に努めている。	○	ご本人及び家族に安心していただけるよう、利用者の体調管理には十分留意し、体調に変化がみられる際は、速やかに医師・看護師に報告及び相談して適切な支援に努めたい。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人代表(理事長)が認知症外来を開設しており、随時、報告・相談の上、治療及びケアに関する助言・指導を受けている。	○	生活状況記録を的確に記載して、医師に対し、より具体的且つ的確な情報提供に努めたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人内のクリニックから、訪問看護師が来所し、利用者の状態観察及び医学的処置等のため来所している。ご入居者の体調に変化が生じた際は、休日・夜間を問わず看護師に報告・相談し、必要の都度、受診介助などの対応に努めている。	○	
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院者には、可能な限り面会して病院スタッフからの情報収集に努めている。 退院の予定日までに、退院後のサービス計画書の作成のための情報収集のため面会を実施している。 入院予定期間が急遽早まるなどの状況にも柔軟に対応できるよう努めている。	○	今後、協力医療機関以外の医療機関の相談員、病棟師長などのスタッフとの関係を深めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	ご入居契約時に重度化した場合や看取りに関する意向を確認している。 看取りに関する指針を整備し、必要に応じて、指針に基づいて適切に対応するよう計画している。	○	本人及びその家族が事業所での看取りを希望される場合は、家族に事業所の機能等を十分に説明し、納得いただいた上で可能な限り適切なケアに努めたい。
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合に関する対応及び看取りに関する対応指針を整備しており、必要に応じて、指針に基づいて適切に対応するよう計画している。	○	二 - ズが発生した際は、家族、主治医・看護師との関係により、可能な限り適切な支援に努めたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	入居者をお迎えする際に、適切なアセスメントの実施や関係者との連携を図り、ダメージを防ぐよう留意している。	○	住み替えの事例が発生した際は、住み替え先への情報提供など適切な支援に努めたい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者への尊厳に対する配慮には、十分留意して関わりを持つよう留意している。 個人情報の管理は徹底して取り組んでいる。	○	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご入居者の意思や意向を確認する場合は、しっかりと意思表示をいただけるよう、落ち着いた環境設定及びゆったりとした雰囲気での問いかけるなどの配慮に努めている。	○	意思表示困難な利用者の意思を可能な限り汲み取って、ケアに反映できるよう努めたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者のペースに合わせて、必要とされることを適切に支援させていただくよう努めている。	○	その人らしさをより一層的確に把握するよう努めたい。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回訪問理容・美容サービス業者により、ご本人の希望に応じて、カット・毛染め・パーマなどの対応をいただいている。現在、ご入居前の理容・美容院の利用を希望される方はいらっしゃらない。お化粧品に関心のある方には、出来るだけお化粧品を楽しんでいただけるよう支援している。毎朝及び入浴後は、ご本人と共に衣類を選んで着用していただいている。	○	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の健康管理及び嗜好に配慮して献立を作成している。食材はできるだけ新鮮なものを近隣のスーパーで利用者と共に購入している。ご入居者の関心や負担感に配慮して、食事準備や片付けに取り組んでいただくよう努めている。	○	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご入居者の健康管理及び嗜好に配慮して、適正量の食事・水分量を摂取いただくよう努めている。お一人ではあるが、お酒を保管しており、ご要望に応じて飲酒していただいている。最近、飲酒を希望されなくなっている。	○	嗜好品を希望される際は、出来るだけ楽しんでいただけるよう支援したい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツは使用しないとの方針で支援するよう努めている。お一人おひとりの排泄パターンや習慣を把握して、利用者のリズムに合わせてトイレ誘導している。排便は出来るだけ自然排便いただけるよう、水分摂取量や食材、また適度な運動の支援にも留意している。	○	トイレで自然排便していただけるよう、散歩・体操などを積極的に取り入れたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	通常は午後のひと時に、ご入居者の意向を伺い、体調や気分に合わせて、入浴していただいている。尿失敗などがあれば、直ちに入浴いただいている。入浴拒否が見られたり、体調不良などにより入浴困難と判断した場合は、清拭や部分浴に努めている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご入居者の生活習慣や体力に応じて、いつでも居室やリビングで休まれるよう配慮している。 リビングにソファや畳のスペースを設置し、休まれている方もみられる。	○	安眠や休息しやすい環境整備を迫していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご入居者の趣味・関心等を把握するよう努めており、余暇のひと時を、ご本人にとってなじみや関心のあることに取り組んでいただけるよう支援している。また、気分転換のために積極的に外出プログラムを設定するよう努めている。	○	ご本人にとっての役割として日常的な家事作業などに取り組んでいただくよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、お一人のご入居者が少額の現金を所持されている。 現在、全てのご入居者の買い物に同行した際は、その都度、ご本人に説明をして事業所で立て替え払いをしている。	○	
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調・気分に応じて、散歩や買い物に同行いただくよう努めている。 積極的に外出プログラムを設定するよう努めている。	○	生活リズムの中に積極的に散歩、買い物などを取り入れていただけるよう努めたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	ご本人の希望をお聴きして、外出行事の行き先を選定するよう努めている(岩国錦帯橋・平和公園など)。 家族と共に外出いただくプログラムも予定している。	○	より頻回に外出機会を実施したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族等からの電話を取り次いだり、ご本人からの電話を支援している。必要があれば、手紙の代筆などの支援を予定している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の知人・友人の方々の面会時には、利用者とゆったりと対話できるよう湯茶を提供したり、必要の都度、会話を支援するなど、出来るだけ居心地よく面会していただけるよう配慮している。	○	いつでも来所いただける雰囲気作りを追及していきたい(接遇・環境整備)。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一つひとつのケアサ - ビスが、身体拘束に繋がりはしないか、必要に応じてスタッフ間で確認しながら支援に努めている。	○	
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、玄関を開錠している。居室は昼夜問わず開錠して過ごしていただいている。	○	
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定期・随時にご入居者の所在を確認している。その際は、プライバシー - に配慮するよう努めている。	○	利用者一人ひとりのなじみの空間づくりを追及していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご入居者の状態に配慮して、可能な限り生活観を失わないよう備品類や装飾品等を設置している。ご本人が混乱された際などは、一時的に保管するよう配慮している。	○	安全・安心の環境整備に留意しながら、生活観や季節感のある雰囲気を追及したい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故予防マニュアルの整備及びその内容の共有化を図っている。 ヒヤリハット事象が発生した際は、当日出勤者が協議・検討し、再発予防策を出来るだけ具体的に立てよう努めている。環境委員会を組織しており、事故予防にも視点を置いて、住環境の点検及び必要の都度、改善を行うよう努めている。	○	インシデント報告書の効果的な活用に努めたい。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	医学的な処置等の基本的な知識・技術の習得を図っている。事業所で町消防本部の協力を得て、事業所で救急救命法の講習会を計画している。	○	研修計画に盛り込んで、全ての職員の知識・技術の習熟を図りたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回防火に関する総合訓練の実施を予定している。火災等の際には地域の消防団に応援いただける体制は整っている。	○	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご本人の心身機能や疾患によるリスクについては、ご家族等への説明に努めている。ご本人に状態変化がみられる場合は、家族等への状態や対応方法の報告に併せて、予測されるリスクについて説明して意向を確認している。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック及び状態観察を実施している。例えば小さな体調変化でも、申し送り及び連絡ノートによりスタッフ間で情報を共有し、必要に応じて、訪問看護師・主治医に報告・相談の上、指示に基づいて適切な対応に努めている。	○	利用者の体調変化を早期発見、的確な報告・相談ができるよう職員のスキルを上げたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を保管し、全ての職員が薬の目的やリスクについて把握するよう努めている。処方に変更があった際は、記録に残し、全職員がその情報を共有して、指示された服薬の時間・数量を確実に内服いただくよう支援している。また、処方変更後の利用者の状態変化については、その都度、主治医に報告・相談している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について、理解できている。日々、職員は排便状況を確認し、必要の都度、訪問看護師に報告・相談を行い、症状の改善を図っている。日常的に適正量の水分摂取や食材の工夫、運動量の確保、適切な内服管理に努めている。	○	できるだけ定期的に自然排便いただけるよう、支援に努めたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケア・入れ歯の洗浄をご入居者と共に行うよう努めている。 口腔内に異変が見られた際は、歯科医の往診を受けていただいている。	○	
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	お一人おひとりにとって適正な食事・水分摂取量を把握し、嗜好や味付けへの配慮等により、ご入居者が必要とされる量を摂取いただくよう努めている。 月1回管理栄養士が来所して栄養バランスや治療食など献立の点検及び指導を受けている。また、食物の調理方法や形状(キザミ等)、水分にトロミをつけるなどの工夫に努めている。	○	ご入居者にとって楽しんでいただける食事を提供していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員健康管理チェック表を整備しており、全ての職員が出勤時にチェックして業務に従事している。 感染症予防マニュアルを設置しており、職員はマニュアルの内容を共有して日常的に予防に努めている。 感染症対策委員会を組織し、予防策実施状況の点検やマニュアルの見直し、食中毒等の警報が出た際は、予防策の周知徹底等に取り組んでいる。	○	新型インフルエンザ、ノロウイルス等の感染予防には、十分注意していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	管理栄養士と連携し、マニュアルに基づいて予防策を講じている。食材別のまな板の使用し、毎日、まな板を消毒している。毎日、包丁は、滅菌消毒器で消毒を実施している。食材の購入の際は、鮮度に注意し、調理後2時間以上経過した食事は、摂取いただかないよう努めている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	環境委員会を構成し、建物内外の環境整備に取り組んでいる。ホームの玄関や外観が親しみやすい雰囲気になるよう、検討を始めている。	○	玄関周辺的环境整備に取り組みたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節毎にリビングの模様替えを実施している。生活感や季節感を感じていただけるよう環境づくりに努めている。	○	心地の良い和みの雰囲気を感じていただける環境づくりを追求していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファ及び畳スペースを設置し、簾による間仕切りなどにより、ご入居者のくつろげる居場所づくりに努めている。	○	居心地の良い空間作りを追究していきたい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の使い慣れた家具や調度品類、絵画、写真などを居室内に設置いただき、ご本人にとってなじみを感じていただける空間となるよう配慮に努めている。	○	安全に配慮し、利用者自身の在宅での生活の雰囲気づくりを追究していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	感染症予報も意図して、毎日全館の換気を実施している。室温管理は、ご入居者の希望を確認しながら、調節するよう努めている。気になる臭いが発生した際は、速やかに消臭剤やお香を活用して臭気の除去を図っている。	○	
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの今ある機能が発揮でき、出来るだけ自由に異動できるよう、動線上の障害物は取り除いている。転倒リスクの高い方の居室には、立ち上がりセンサーの設置や床面にマットを設置するなどの環境整備に努めている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	<p>わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>ご本人が出来ること、出来ないこと、出来るのには出来ないことを把握し、負担感無く、出来ることには取り組んでいただいている。他者との関わりの中で、関係づくりに配慮し、混乱やトラブルを招かないよう配慮している。</p>	○	
87	<p>建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>屋外に菜園を設置している。野菜類を栽培しており、園芸に関心のあるご入居者と水遣りや草取りまた、収穫などを楽しんでもらっている。</p>	○	<p>屋外の活動の機会を増やすために花栽培を実施する予定。</p>